

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 防災パトロールを実施しました

今年も梅雨の季節を控え、消防・警察のみなさんと一緒に、有帆川・下木屋の排水機場、鳥越地区の崖の崩落現場、そして埴生の危険ため池を巡回しました。大雨が続くとJR小野田駅前から駅前商店街・新生町一帯にかけて膝近くまで水に浸かるという状態を何とか解消しようと、今年度は約1億円の予算で、下木屋の排水機場にポンプを1機追加設置する予定です（これで排水機場が予定している3機全部が揃います）。ポンプ1機の追加だけでは、水に浸かる状態を全部解決することはできないそうですが、被害の軽減に少しでも役立つことを期待しています。次に向かった崖崩れの現場は県の応急対策でしばらくは持ちこたえる印象を受けましたが、最後に向かった危険ため池の方は既に堤体がやせていて、遅くとも来年度の予算には何とか反映させないと、ため池から下手の中村地区までのかなり広い範囲の農地に深刻な影響が出かねないように思われました。時節柄、防災・減災には特に力を入れています。多面にわたる危険箇所への対策には、きちんとした手堅い年次計画が不可欠であるように思いました。

■ 東日本災害がれきの広域処理について (中間報告・その2)

本市のゴミ焼却灰は、一般廃棄物の最終処分場に余裕がないため、この4月から全部、周南市にある株式会社エコテック（再生利用工場）に搬送していること、災害廃棄物の再生利用の場合の受入れ基準は、製品としての流通前

の段階で放射性濃度が1kg当たり100ベクレル以下（一般食品中の放射性物質の安全基準と同じ数値です。）に制限されていること、これらは既にお知らせしたとおりです（広報「さんようおのだ」5月1日号3ページ参照）。その後、エコテックの希望もあり、県から国に対し焼却灰の取扱いの安全性について再度照会し、国の回答を待って市長協議会を開催する予定になっていましたが、今日（6月4日）現在、まだ国の回答がありません。

■ 国際女性の日について

国際女性の日は3月8日です。1904年3月8日にアメリカのニューヨークで、女性労働者が婦人参政権を要求してデモを起こしたのが、そもそものきっかけとか。さらに歴史は進み、1917年、ロシアの当時の首都ペトログラードで起きた女性労働者のデモが、男性労働者、さらには兵士を巻き込んだ大規模な蜂起となり、帝政の崩壊に至った「二月革命」の記念日も3月8日。国連は、1975年（国際婦人年）に3月8日を国際婦人デー（国際女性の日）と定め、以来、事務総長が「女性の十全かつ平等な社会参加の環境を整備するよう」、加盟国に呼びかける日となっています。最近では、3月8日に女性に花束を贈ることが慣例となっている国が、特に東欧では多いそうです。（ウィキペディアを参考にしました。）

対話の日

6月26日(火) 19:00 ~
出合公民館